

ベルギーの幼児教育(二)

足立寿美

ジャルダン・ダ・アンファンを訪ねて

ここで、実際の幼稚園についてお知らせしましょう。訪ねたのは、ヤンセン市長が紹介して下さったコミュニケーション(公立)の「レ・ブッサン」(子どもの愛称・育ちゆくものとも訳せると思います)で、私のアパートから歩いて十分、ちょうど新しいアパートの建ちならんだ住宅地の裏側にあります。

ここも日本と同じように四歳児・五歳児・六歳児と各年齢ごとにわけられています。まず最初に、各年齢グループごとに参観した時のようすを述べてまいりましょう。

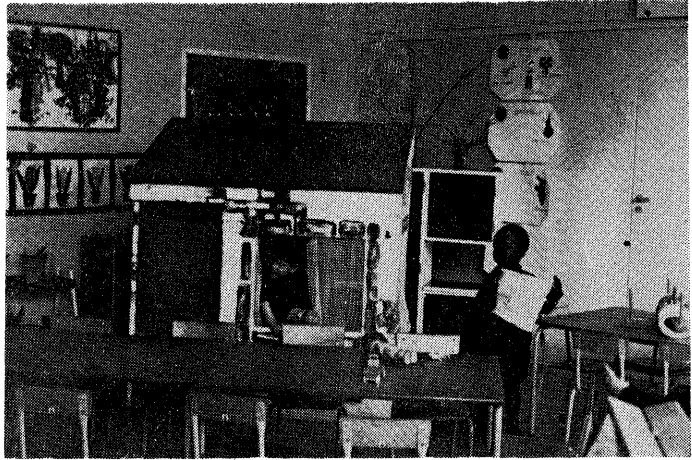
四歳児

中庭をかこみコの字型に教室が並び、そのうち六クラスは新しい建物、これは如実に園児の急激な増加を示しているようです。

四歳児はその新しい方にあり二クラスが一単位となっていて、共同の入口をもち、戸をあけるとその左右に教室があり、正面にはお手洗いがあります。オーバーかけは、さまざまの色の動物が名前と共にはりつけてあります。

その日は、ベルギーにしては珍しいほどのよいお天気で、大きくとられた窓から日がいっぱいにさしこんで、教室の中はとても明るくあたたかです。

受け持ちの若い先生と、ボンジュールと握手をかわす私に一斉に子どもの視線がむけられています。教室の中には、約三十人近



合に、とても居心地のよい、和やかな教室です。私が先生の机の横に腰を落ち着けるとまもなく、「これから自由遊びです」と、先生がおっしゃって一日の活動がはじまりました。

「さあ、お行儀よく、いい子にしている人から遊びますよ」と

くの子どもが、二つの机にわかれてすわっていました。窓側にはたくさんの植木鉢と金魚、一角に先生の机、それに面して、赤い屋根に、レースのカーテンがかかっている子どもの家、三方の壁には子どもたちの作品という具

いう先生の指図で、子どもたちは自分の名前の呼ばれるのを待っています。四人の子どもは水遊びです。まあるい小型のタライが机の上におかれ、そのまわりをグルリととりかこみ、タライの中でコップからコップへと水をうつしています。他に八人、砂あそびに呼ばれました。

縦一メートル半、横八十センチくらいの机がひらくようになっていて、その中に約二十センチの深さに砂がはいっています。むかい合わせになった四人はコップに砂を入れたり、ポットをくぐらせたりしています。また他のふたりは、例の小さな家の中で「お父さんとお母さんごっこをしない」といわれてはいけません。

水遊びにしても、また砂遊びにしても、それは狭いところできっしょにやるわけですから、ちょっと横でも振りむこうものなら、すぐ隣の子の邪魔をすることになります。したがって、「○ちゃんが僕のを取った」「○ちゃんが邪魔をする」という訴えごとがしょっちゅうきこえます。それに対して先生は、「シーー静かにいい子で遊びなさい」と繰り返しいつてらっしゃいます。水遊びをして元氣よくバシャバシャ水をとばしていた男の子は、どうとう机につかされてしまいました。

どの遊びにも加われなかった子どもは、机について静かにしています。その間にも、ひとりまたひとりと遅刻して子どもが登園

です。ベネエズエラ人のカルメンは、バナナを口にほうばりつつ、現われて、先生の次に私のところにとんできました。私はそのバナナの一杯ついた手と握手せざるを得ない状況におかれたわけです。

二十分もたつと、訴えごとに夢中で遊んでいる子の方が少ないくらいになり、自由遊びは終わり、次はイースターの卵型のチョコレートと、その入れもののかごを使って「大きい」、「小さい」、「中位」という言葉の勉強にはいりました。

言葉の勉強の後は元氣よくリズム遊びです。先生のタンバリンの音に合わせて、机のまわりをすり足したり、かけ足したり、ボンと止まったり、クラスで一番小さい女の子がのろいので、後がつつかえ大変です。日本ですと、恐らく教室に一台のオルガンかピアノがあると思いますが、ここでは、特別に音楽教室にあるようです。この後いっしょにお手洗いにいきます。これは二クラス共同で使えるようになっていて、左手に男の子用、正面に女の子用がずらりと並んでいます。「男の子と女の子いっしょですか」と尋ねると幼稚園は共同で小学校から別々になっているとのことでした。

お手洗いのすんだ子からお十時をもらいます。

日本ですと、一体に、食べる時、どうしていただくか問題ですが、ベルギー人はもっぱら味を楽しむ主義らしく、どこで、どんなふうにということは気にしないようです。ボンジュールと食

べながら教室にはいつて来た子はいく人かいましたし、町でも立派なミンクのコートを着、ミンクの帽子をかぶった、立派な婦人が丸いアンパンなどを袋でくるんで食べているのに出くわすのも稀ではありません。また、その量とスピードは驚きにあたいします。もつとも行儀にかまわないというわけではなく、いつもカモレストランで、アメリカ式に、ナイフで一口切り、フォークを持ちかえて食べてましたら、いかにもこの野蛮人め、という感じで眺められ、ヒソヒソとささやかれたのには閉口しました。あまり私の方を観察するのに気をひかれ、その婦人はついにお魚の骨がささってゴホンゴホンとなった時は少しこちらも余裕ができました。

五歳児

「五歳になるとこの前の四歳と異なり、ずい分といろいろなことができるようになりますよ」とデュブルユイソン女史は少し得意気です。

教室の中は四歳児が増して、一層にぎやかです。小鳥が二種類と、緑葉植物、それに加えて子どもの絵やら観察日記などが四方の壁、さらに天井にまでひもでつるされているという具合です。

ここも今日は四歳児と同じくイースターの卵を材料に言葉の勉強中でした。

——卵は何にはいつていますか。

「カルトン」

—— どうしてかしら。

「こわれるから」

—— そう、卵はとてもこわれやすいから。

—— さあ、いくつあるか数えましょう。ビエール！

(ビエール、一つ二つと十まで数える)

—— ビエールは十コあるといますよ。指で十を示して下さい。

い。

—— さあこんどは形、卵はどんなかたちをしますか？

「白」

—— それは色ね、形は四角とか丸いとかいうでしょう。

「まる」

—— そう丸を長くした形ですね。楕円形。

—— 卵のこの外側のかたいから(と指でたたいてみせる)をな

んとうかしている？ 卵のから。

(みんな口々に先生のまねをする)

—— さあ、割ると中から何かでてきますよ、これはなあーに？

「水」

—— 水？ 水みたいなものだけど、これは卵白。これで全部か

しら？——

「ノンノンきいろいろいがある」

—— そうね、卵の中には卵白と卵黄があります。ほら。

(と全部、うつしおわる)

(子どもたちは一斉に立ち上がり、先生の机にやってこようと
する。先生は今、もってまわりますから席に行儀よくすわってと
指示する。この時、横にすわっているデュブルユイソン女史が、

「卵白は透明ね、あらこれはまだ少し難しすぎるかしら」

—— そう、透明、むこうがすけてみえるでしょう？ 卵黄はお

さらのむこうがみえないから透明じゃないわね。

(~~~~)がひかれていいる言葉を習得する)

このように子どもの身近な材料、野菜や果物・植木を主題にし
て言葉を学びまた細かく観察し、みたままを絵に描くという方法
がさかんに使われているようです。

輪になってすわっている十五、六人の子ども(この日は流感で
多くの子どもが欠席)はモロッコ人ひとり、コンゴ人ふたり、ア
ルジェリア人ひとり、東南アジア人ひとりにベルギー人という組
み合わせで、その中にはまだフランス語のよくわからない子ども
もいます。私のフランス語では知らない言葉も多く、「これでは
フランス語をならいに幼稚園に来てもいいですね」とデュブル
ユイソン女史にいったことです。

割られた卵はその後、オムレツに使われます。教室の一角には
小さな電気コンロがあり、バターがシューととけはじめました。



もう言葉の勉強が三分以上も続いているわけで、そろそろここここでいたずらがはじまりました。そのうち男の子ひとり私の傍にやって来て、今にも泣き出しそうに、「マダム、ニコルが僕の椅子けとばすの」と訴えます。

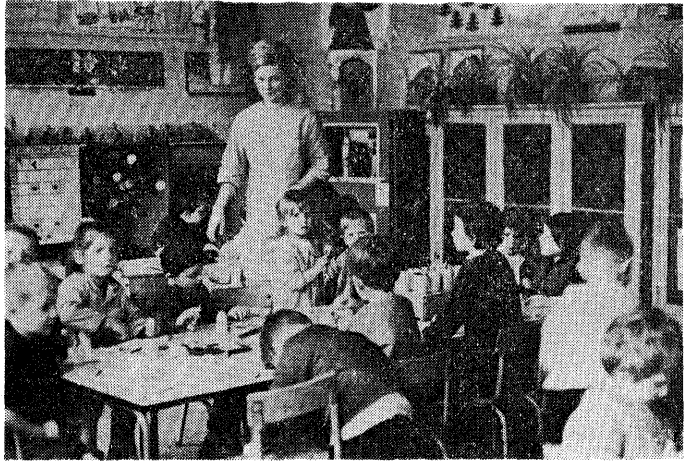
静かになさい」これでみんなのいたずらの手はストップ、私の方に一斉に視線が集まりました。子どもたちの気分を変えようと受け持ちの先生は「水車の歌」をうたいはじめ、みんないっしょに手をグルグルとまわしながら合唱です。その間にオムレッツのいいにおいが教室の中にブンブンにおいはじめました。

私としては動きたくってムズムズしている子どもが、これからのようになっていくか興味のある点でしたが、椅子をゴトゴトとさせている子どもを前にデュブルユイソン女史は大層当惑したようすで「小さい子どもはとかく注意散漫で困ります」とおっしゃり、次のクラスに移りましょうということになりました。

どの教室にも、たくさんさんの画と同時にマリオネットがかざらの教室の前には、それはおもしろいのがかざられているので、興味深く思っていましたらちょうど五歳児の三つめのクラスがマリオネット製作中でした。

子どもたちはコの字型に先生をとりまいてすわっています。こども例の「さあ静かに腕を組んで……」ときかんに静かにされることが要求されています。中央の机の上には毛皮の細いの、眼鏡のつる、赤・黄・白の三種の毛糸、貝型のマカロニ、ボタン、帽子、鳩のはね、押花などがかごに入れてあり、その他顔の土台に使われる卵型大小二つ、洋服になるらしい四角いキレが三枚置か

した。
その時です。「少しうるさいですよ。このマダムは遠い遠い日本の方でみんなの学校をみにいらしているんですよ。ベルギーの子はすごくおしゃべりでお行儀がわるいと思われてもいいの？」



れています。

大きい卵型

に人指し指を

つつこみ、子

どもにみせな

がら、「どこ

からはじめま

しょうね」と

たずねます。

一斉に、鼻だ

の服だの目だ

のという答が

返って来まし

た。先生はみ

んなをみまわ

して「○○ち

ゃん」と指名

し、呼ばれた子は先生の机から、好きなものをえらび、のりをつ
け、卵型の上にはりつけます。スマイルの押花が口になり、金色の
まあるい布が目になり、めがねがつき、帽子をかぶり、とだんだ
ん形が整っていきまます。何しろ先生の指に土台がさきついているわ

けですから、なかなかうまく具合に力はいらず、結局、先生が
子どもの手を持っておさえつけるまでにしないとつきません。貝
型のマカロニを目に使った子は、左右、高さをちがえてはりつけ
「あがり目にさがり目」をいっしょにしたようになりました。先
生はそれもみんなにみせて「こんなに目はなれているのはおか
しいわね」といい、両方同じ位置につけかえました。

でき上がるとこんどは名前をつけてもらいます。いろいろ発言
があり結局、アドレアンということにおさまりました。

ひとりの子どもが先生の前で、口をつけたり、目をつけたりし
ている間、他の子どもは静かにみているわけで、勝手に席を立つ
と注意をうけます。男の子は一体に関心が低く、となりの子とい
たずらに忙しい様子でした。このマリオネットは子どもの想像力
を育てる目的でやっているとのこと、午後はこれを使ってお話
をしたり、お芝居をしたりするのだそうです。すでにマリオネッ
トのエクスパートが幾人かいるらしく、「先生、私とミッシェル
にさせてー」と注文が出ています。

そういえばはじめに述べたアニーもマリオネットが大好き、い
っしょに遊ぶと必ず最後はマリオネットということになり、自分
の部屋から熊をはじめ、人形などをほこび出し、ひとつひとつ声
をかえての大熱演になります。

(在ベルギー)